

11月25日

この日は、カンボジア国立研究所の Dr. Soeung Sopha 氏と高等教育省の Dr. Nith Bunlay 氏を迎え講義が行われました。

Dr. Soeung Sopha 氏は、カンボジアにおける教育研究の意義と成果を紹介しました。また、カンボジア国立教育研究所（NIE）の歴史と使命についても説明していただきました。NIE は、1941 年の「教育学校」設立に始まり、高校教師や教育機関のリーダー、研究者の育成を行い、教育政策の改善に貢献している機関です。現在、NIE は実践に基づいた研究文化を醸成しており、学士後 1 年課程や修士課程に向けたトレーニングを提供しています。今後は、地域や国際的な教育研究機関との連携の強化、研究フォーラムの開催、研究ジャーナルの出版などを計画しています。

続いて、Dr. Nith Bunlay 氏は、自身のキャリアと研究を紹介し、カンボジアの高等教育政策についての研究の現状と課題について講義をしました。依然として、研究の資金不足や研究者支援体制の脆弱性、特にカンボジア国内の研究エコシステムの未成熟さを課題に挙げていました。そして、研究者の数とその質の向上の必要性についても指摘されていました。今後は、研究大学としての発展、優先テーマの設定、そして大学と産業界の連携強化が不可欠であると述べられました。



午後は、プノンベン教員養成学校を訪問しました。校長先生から学校の創立と発展の歴史について説明を受けました。教員養成プログラムには、カリキュラム設計、教育理論、実地訓練が組み込まれ、教育現場での実践的な経験を積む機会が提供されていることを特色として挙げていました。また研修員たちは、実際に授業を観察しました。そのうえで、学生たちへの指導方法や教育方針に対する意見交換を行いました。プノンベン教員養成学校が取り組んでいる教育改革について研修員たちは興味を持ち、特に教育現場での実践的な学びの重要性を再確認していました。

